

## 2013 Jシリーズ トライアル#02 イベントレポート

シリーズ戦第二戦の会場となったのは、岐阜県関市の「岐阜県百年公園」。森の中を走るサイクリングコースやテニスコートなどを有する広大な公園の一角に、人工物をメインとしたセクションが設営されました。それほど広いスペースでは無い中に、重機用タイヤ・1本橋・斜面・ロック・コンクリート・枕木と、ひとつひとつのセクションに明確な特色を持たせ、またプッシンの白マーカーからエリートの黄色マーカーまでUCIの国際大会を意識したセクションが用意されていました。



百年公園の若林氏、重機のオペレーションを行った上村氏とアンテロープスの日頃の研究の成果、そしてセクション設営の為のたゆまぬ努力の賜物だと思います。また、セクションの構造物等の目立つ部分だけではなく、例えば高いステアケースの助走部分にはゴムのマットが敷かれてあったり、セクション以外の部分にも新たに土や砂利を入れてきれいに聖地してあるなど、悪天候の場合にも選手が気持ちよく走れる様に、快適に過ごせる様にと細かな配慮が見られました。

大会の数日前には雨の予報、当日日中には大雨・洪水注意報が発表されていましたが、日中に少し雨がパラついた程度でした。しかしながら、降雨が無い事で猛暑日となり、「好天に恵まれた」と簡単には言えない天候、特に午後からの競技スター路となったエリート20/26、ジュニア、カデット、マスターズの選手達にとっては過酷な状況となりました。各選手の点数や、午後からスタートの選手の多さが2ラップ目に点数を増やしている事からも、その過酷さが伺えます。



セクションは難易度が高めで、1度のミスが命取りとなるポイントが多数設置され、全体的に難易度の高い設定でした。大きな飛びもあり、バランスを問われるポイントもあり、正確さや「自身の技術を信じる力」が求められる場面もあり、言わばトライアルの総合力が問われたと言えます。また、世界の舞台を目指す選手にとっては良い指針となったと思います。いずれのセクションも「どこかでこんなセクション見たことあるな」と思える雰囲気を持っていたので、あのセクションに、更に10～20%程度の飛距離と高低差を加えた物が国際大会でのセクションと考えて頂いて問題ないです。

飛ぶだけではいけない、飛べなくてもいけない、バイクコントロールがいい加減ではいけない、行き当たりばったりでは到底走れない・・・と、参加して頂いた各選手には少なからず課題が見つかったはずですが、出来なかった事を受け入れ、課題を見据えてトレーニングを積み、次回以降の大会に臨んで欲しいと思います。

今大会の開催を快諾して頂き、セクションの設営と準備に多大なご尽力を頂いた岐阜県百年公園に、またセクションの設営と大会運営に力を注いで頂いたアンテロープスに、そしてご参加頂いた選手各位に心よりの感謝を申し上げます。

日 時 : 2013/7/14

会 場 : 岐阜県百年公園

参加選手数 : 48 名

来場者数 : 200 名

主催 : JBTA 日本自転車トライアル協会

共催 : 岐阜県百年公園

主管 : アンテロープス

協賛 : Wood Young 若林製作所

SPORTKID (株)ウィズキッド

〈 順不同・敬称略 〉